世田谷区基本構想
シンポジウム

住民自治の確立をめざして

平成25年6月29日

基本構想等策定趣旨説明

世田谷区長　保坂展人

関東　住みたい行政市区ランキング（総合）

N=3,000

順位	行政市区名	得点
１位	世田谷区	1115
２位	港区	747
３位	目黒区	714
４位	鎌倉市	584
５位	武蔵野市	552

出典：株式会社リクルート住まいカンパニー「2013年版 みんなが住みたい街ランキング 関東版」（2013年3月）

関東　住みたい行政市区ランキング（男女別）

男性　N=1,500

順位	行政市区名	得点
１位	世田谷区	474
２位	港区	350
３位	目黒区	278
４位	武蔵野市	249
５位	杉並区	241

女性　N=1,500

順位	行政市区名	得点
１位	世田谷区	641
２位	目黒区	436
３位	港区	397
４位	鎌倉市	369
５位	杉並区	306

出典：株式会社リクルート住まいカンパニー「2013年版 みんなが住みたい街ランキング 関東版」（2013年3月）

関東　住みたい行政市区ランキング（男女別シングル）

男性 N=500

順位	行政市区名	得点
１位	世田谷区	133
２位	港区	107
３位	中野区	101
４位	杉並区	96
５位	武蔵野市	79

女性 N=500

順位	行政市区名	得点
１位	世田谷区	251
２位	目黒区	191
３位	港区	179
４位	杉並区	125
５位	武蔵野市	111

出典：株式会社リクルート住まいカンパニー「2013年版 みんなが住みたい街ランキング 関東版」（2013年3月）

関東　住みたい行政市区ランキング（男女別ファミリー）

男性 N=500

順位	行政市区名	得点
１位	世田谷区	167
２位	鎌倉市	96
３位	目黒区	87
４位	港区	78
４位	武蔵野市	78

女性 N=500

順位	行政市区名	得点
１位	世田谷区	196
２位	鎌倉市	126
３位	目黒区	114
４位	港区	91
５位	杉並区	90

出典：株式会社リクルート住まいカンパニー「2013年版 みんなが住みたい街ランキング 関東版」（2013年3月）

東京のどこにでも家を建てられるなら、どのエリアがいいか。

全体

順位	行政市区名	割合
１位	世田谷区	12.5%
２位	港区	10.0%
３位	目黒区／杉並区	6.5%

男性

順位	行政市区名	割合
１位	世田谷区	14.0%
２位	港区	10.0%
３位	渋谷区	8.0%

女性

順位	行政市区名	割合
１位	世田谷区	11.0%
２位	港区	10.0%
２位	文京区	10.0%

出典：オープンハウス「住まいの願望に関する意識調査」（平成２５年６月２０日）

東京のどこにでも家を建てられるなら、どのエリアがいいか。

全体

順位	行政市区名	割合
１位	世田谷区	12.5%
２位	港区	10.0%
３位	目黒区／杉並区	6.5%

男性

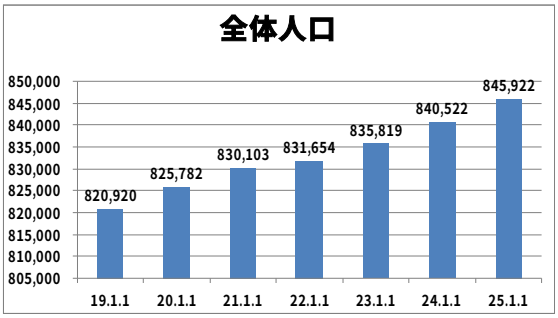
順位	行政市区名	割合
１位	世田谷区	14.0%
２位	港区	10.0%
３位	渋谷区	8.0%

女性

順位	行政市区名	割合
１位	世田谷区	11.0%
２位	港区	10.0%
２位	文京区	10.0%

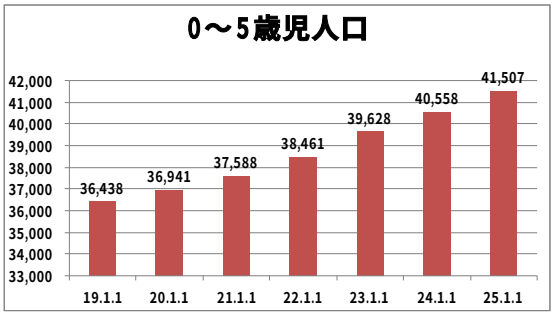
出典：オープンハウス「住まいの願望に関する意識調査」（平成２５年６月２０日）

世田谷区の人口動態（1）



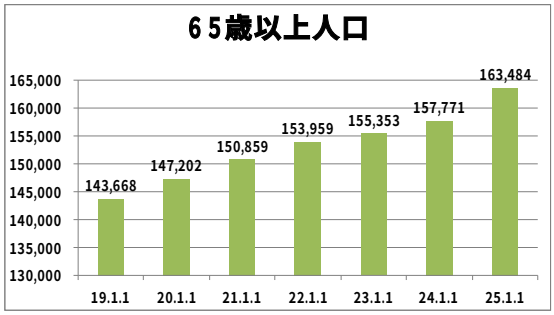
※各年1月1日の住民基本台帳人口（外国人を含まない）

世田谷区の人口動態（2）



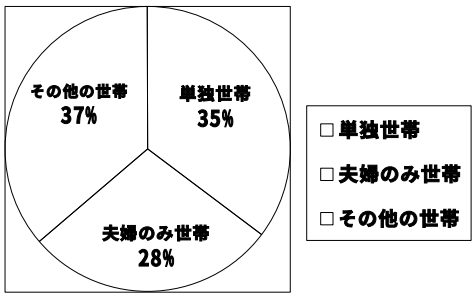
※各年1月1日の住民基本台帳人口（外国人を含まない）

世田谷区の人口動態（3）



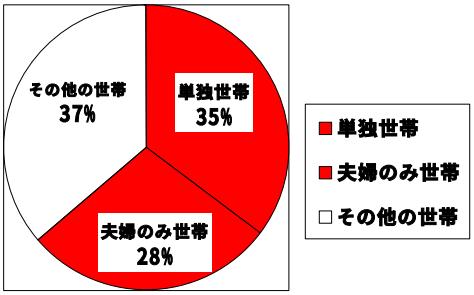
※各年1月1日の住民基本台帳人口（外国人を含まない）

高齢者人口（65歳以上の内訳）



※平成22年国勢調査による

高齢者人口（65歳以上の内訳）



※平成22年国勢調査による

平成２４年度区民意識調査　区政について

問６　あなたは、今後区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思いますか。

1位　「災害に強いまちづくり」　（５６．４%）

2位　「防犯･地域安全の対策」　（４４．６%）

平成２４年度区民意識調査　区の基本計画・実施計画について

問10　基本計画では区民・事業者・行政が力を合わせて推進していく重点的取組み「リーディングプロジェクト」を掲げています。共感できる取組みはどれでしょう。

1位　「身近で利用しやすい道路・交通環境の整備」（65.6%）

2位　「誰もがまちに足を運びたくなる安全・便利な歩行空間の整備」（61.6%）

3位　「子育て環境の向上」（57.8%）

4位　「地域と共に子どもを育てる」（55.3%）

なぜ、今、基本構想をつくるのか？

「世田谷区基本構想」とは

世田谷区の、「おおもとの」（＝基本）

「これからやろうとすることの考え」（＝構想）

です。20年先を考えて、「どんな世田谷区をめざしていくか」を描きます。

寛容な社会

世田谷区は、元は農村でしたが、関東大震災の後、終戦後、高度成長期などに多くの人が転入してきました。昔から住んでいる人と、新しく引っ越してきた人が少しずつ交じり合い、多様な人が共存するまちをつくってきたことで、新しく区民になった人をゆるやかに迎え入れる寛容な気風を持っています。

都内で最大の人口

世田谷区の人口は、平成25年4月1日現在889,526人（平成22年国勢調査ベースの推計）で、都内の自治体で最大の人口を抱えます。

また総世帯数は448,179世帯で、こちらも都内最大です。

人口は増加傾向にあり、平成24年には、総人口は5400人、0～5歳の子どもは949人増加しました。

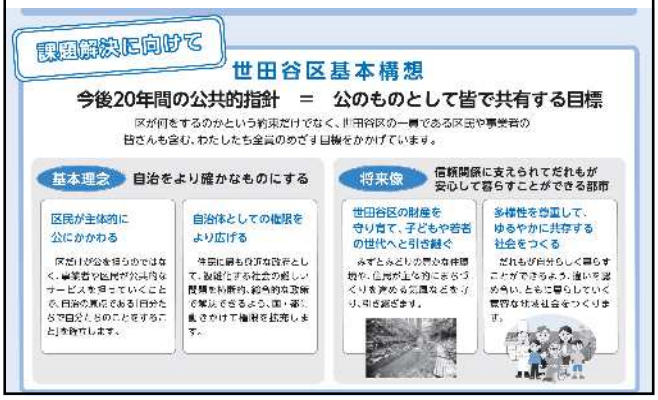
新たな課題認識に基づく要素

防災・減災 復元力	子ども 若者	地球環境 エネルギー

現行基本構想から、新たな基本構想素案へ

現行基本構想		新たな基本構想素案
人間尊重のまちづくり	→	個人の尊重、多様性の尊重、人と人のつながり（社会的包摂）
区民自治の確立	→	区民の主体的な参加による自治の確立 自治権の拡充

めざすべき都市像、基本構想の位置づけ、基本理念



基本計画の柱

基本構想の考え方を元に、その実現に向けた基本計画を策定する。
基本計画の基本方針は、以下の三点である。

住民自治の確立
ー参加と社会的包摂(※)ー

環境と調和した
地域社会の実現

自治権の拡充と
持続可能な
自治体経営の推進